

事業活動実績報告書

施 設 名	幼稚園型認定こども園青鳩幼稚園
教 育 理 念	・あいさつのできる子・明るく、のびのびした子・思いやりのある子・自分から進んで、喜んでやれる子・興味を持ち、努力する子・粘り強く頑張れる子
1 事業名	英語講師による、英語遊びを通して、国際的な感覚の基礎を育む機会の創出事業
2 実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 外部の英語講師を招き、自由遊びの時間から一緒にコーナー遊び等で子ども達と遊んでいただく。一斉活動では歌やリズム遊び、簡単な絵本等を通して英語あそびを実施した。英語の習得ではなく、音やリズムに親しみながら言葉への興味・関心を育むことを目的とし、安心して表現できる環境づくりを行った。国際的な感覚や異文化に触れる機会として、コミュニケーションの楽しさを感じられる活動とした。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	幼稚園型認定こども園青鳩幼稚園				
教育理念	・あいさつのできる子・明るく、のびのびした子・思いやりのある子・自分から進んで、喜んでやれる子・興味を持ち、努力する子・粘り強く頑張れる子				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康	人間関係 ○	環境 ◎	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	英語講師による、英語遊びを通して、国際的な感覚の基礎を育む機会の創出事業				
2 事業概要	学年・クラス毎に外国人講師に関わりながら、英語遊びを楽しみ、英語や外国文化に親しむ。				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	年少・年中・年長 (クラス名:全8クラス)			206 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 外国(カナダ)人講師に定期的に来園いただき、自由遊びの時間とクラスの時間に子ども達と関わり、英語に親しむ。			
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 外国人講師が定期的に来園し、自由遊びおよびクラスの時間に子どもと関わることで、その日は、日常的に英語に触れる機会が確保されている。自由遊びの時間、クラスの時間の双方において、子どもが講師と一緒に遊びや、やり取りを楽しむ姿が見られ、英語の音やリズムに親しむ様子が確認された。一方で、講師との関わりに対して戸惑いを見せる子どもの姿も一部見られたことから、今後は子どもの安心感に配慮した関わりや段階的な関係づくりを意識し、すべての子どもが無理なく英語に親しめる環境づくりを進めていく必要がある。			
計画時	5 事業のねらい	国際化やインバウンドが進む社会において、外国の人や言語の存在を知り、親しみを持つことは、小学校以降の教育や子ども達の将来において、国際理解を培うためにも必要なことである。そのため、幼稚園の人的環境の一つとして、外国人講師に定期的に来園していただき、そのための土台作りをする。			
	事業後 5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 子どもたちは外国人講師に対して「Hello」や「Good morning」などの簡単な英語を用いて自ら関わろうとする姿が見られた。講師の名前を呼びかけながら挨拶を交わすなど、親しみをもって関わる様子も確認され、英語の音や言葉に対する抵抗感の軽減や、コミュニケーションへの意欲の高まりにつながっていることがうかがえた。			
計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等			
		各クラス月2回程度の割合で、講師の先生に来園いただき、自由遊びの時間には、園庭で一緒に砂遊びや運動遊び等をして楽しむ。クラスの時間では、歌遊びやゲーム、外国の絵本などを通して英語に親しむ。			
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点			
		オリンピックやワールドカップなど、国際的な行事に興味関心を持つと共に、運動会では日本をはじめ、色々な国の国旗に興味を持ち、国際的な感覚の芽生えを育むことに繋がっている。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 日本でも社会的にハロウィーンやクリスマスといったイベントは一般的になってきている。英語に親しむ機会を増やすと共に、それらの時期に、直接英語講師から当該行事に繋がる衣装をしたり、道具類を紹介する等の働きかけをしてもらうことで、直に外国の文化や習慣に触れる機会となり、幼児なりに「文化」や「伝統」というものへの親しみを持つことに繋がっている。			

事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 英語講師が自由遊びおよびクラスの時間に継続的に関わることで、子どもと講師との関係性が築かれ、クラスの時間においても安心して活動に参加する姿が見られた。また、歌やゲーム、絵本等の活動を通して英語に親しむとともに、講師とのやり取りの中で英語の音や表現に興味をもつ様子が確認された。 さらに、ハロウィーンやクリスマス等の行事において、講師による働きかけを通して外国の文化や習慣に触れることで、子どもが衣装や道具、言葉等に関心を示し、楽しみながら参加する姿が見られた。運動会における国旗への関心なども含め、身近な経験を通して多様な文化に触れる機会となっていることがうかがえた。 これらのことから、日常的な関わりと行事を組み合わせた取組が、英語への親しみだけでなく、異文化への興味・関心の広がりにつながっていることが確認された。
	7 環境構成例	講師は、自由遊びの時間は各遊びのコーナーを回りながら、子ども達と英語で関わり、クラスの時間には一斉活動として、上記の取組を行う。 図鑑や絵本などで、世界の国の国旗の存在を知ると共に、自分の気に入ったデザインの国旗を選んで、お絵描き等で旗を作り、それを運動会時期には万国旗として飾るなどして、日本と共に世界の国へ興味を持ち、幼児なりに国際感覚を育んでいる。
計画時	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 外国人講師が自由遊びおよびクラスの時間に継続的に関わることで、子どもが日本以外の国や人の存在に関心を示す様子が見られた。講師との活動の中では、英語の歌や絵本に親しみながら、言葉や文化に触れる経験が積み重ねられている。 また、年長児においては、国旗に関する活動を通して、自分の興味のある国を選び制作に取り組む姿が見られ、運動会で万国旗として掲示することにより、世界には多様な国があることへの気づきにつながっている様子が確認された。 これらのことから、人的環境と活動環境を組み合わせた取組により、子どもが身近な経験を通して多様な文化や国に親しむ姿が見られるようになっている。
	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 自分が日本人であることを自覚すると共に、社会には色々な国の人たちが存在していることを知る。そして、園の子どもの中には、外国人ハーフの子どももいる。外国人講師やそうした子ども達(人的環境)と幼児期から関わることで、肌や目の色、日本語以外の言葉話す人達に対して、偏見や差別といった感覚を持たず、一人の人間として同じように接する土台作りをしたい。
事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 最近では、外国籍の入園児が増えてきているが、日本語でのやり取りが難しい場面においても、身振りや表情を通して関わろうとしたり、遊びに誘ったりするなど、友達として関係を築こうとする姿が見られた。外国人講師との日常的な関わりや、多様な背景をもつ子ども同士の関係の中で、言葉や見た目の違いにとらわれず関わる経験が積み重ねられている。これらのことから、子どもが多様な人との関わりに親しみをもち、互いを受け入れながら関係を築こうとする姿の育ちにつながっていることが確認された。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本事業を通して、外国人講師が日常的に子どもと関わる人的環境を整えることで、子どもが英語の音やリズムに親しむとともに、外国の人や文化に対して自然に関心をもつ姿が育まれていることを実感した。自由遊びやクラスの時間を通して関係性が築かれることで、子どもが安心して講師と関わり、自ら挨拶や簡単な言葉でコミュニケーションを図ろうとする姿も見られた。また、行事や国旗制作等の活動を通して、世界の多様な国や文化に触れる機会を設けることで、子どもが興味を広げながら楽しんで参加する様子が確認された。さらに、外国人講師や多様な背景をもつ子どもとの関わりの中で、言葉や見た目の違いにとらわれず関係を築こうとする姿が見られたことは、本取組の大きな成果である。一方で、講師との関わりに戸惑いを見せる子どもも一部見られることから、今後は子どもの安心感に配慮した関係づくりや段階的な関わりをより一層工夫していく必要がある。今後は、運動遊びと同様に、日常の保育の中で英語や異文化に触れる機会を継続的に取り入れるとともに、子ども一人ひとりの発達や興味に応じた関わりを大切にしながら、外国の人や文化に親しみをもって関わる基盤づくりを進めていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。